



## 5 研究の実際

研究の視点をもとに、熊本市中学校授業研究会（10月開催）では4ブロックに分けて事前研究会及び授業研究会で研究を行った。保健分野と体育分野に分かれ、保健分野では養護教諭とのTTを行い、より専門的な知識を学べるようにした。

### 【北ブロック】

清水中学校 球技2年「タグラグビー」

山中拓哉教諭



### 【南ブロック】

天明中学校 ダンス1年

「現代的なリズムのダンス」

古本大周教諭



### 【東ブロック】

湖東中学校 球技1年「アルティメット」

木下真美教諭



### 【西ブロック】

西山中学校

保健3年「感染症の予防」

坂梨雄次教諭 池田祐美養護教諭



## 6 研究の成果と課題

今回の実践を通して、保健体育における主体的・対話的で深い学びを意識した授業を経験できたことは、大きな学びとなった。子ども達に主体性をもたせた授業を展開するための指導の工夫や発達段階に応じた配慮をしていくことで、子ども達が自ら課題を見つけて活動する姿も多く見られた。また、子ども達に視覚的に分かりやすいようにICT機器の活用をしたり、子ども達同士でもICTを活用しながら動きの確認や作戦会議などをしたりすることで、効果的なICTの活用力も高まった。ただ、子ども達一人ひとりの課題に対して、常に意識をもたせるための工夫や振り返り活動をさらに充実させることで、次時への意欲につながると感じた。今後は、振り返り活動をさらに充実させるためにめあてや視点を明確にすることや時間の確保等の工夫を考えていきたい。また評価について悩まれている先生がいたことも分かった。指導すべき内容とその評価の確認をしながら、「何ができるようになるか」という目指す資質・能力と「何が身についたか」という学習評価にずれやねじれが生じないように今後も研究を進めていきたい。